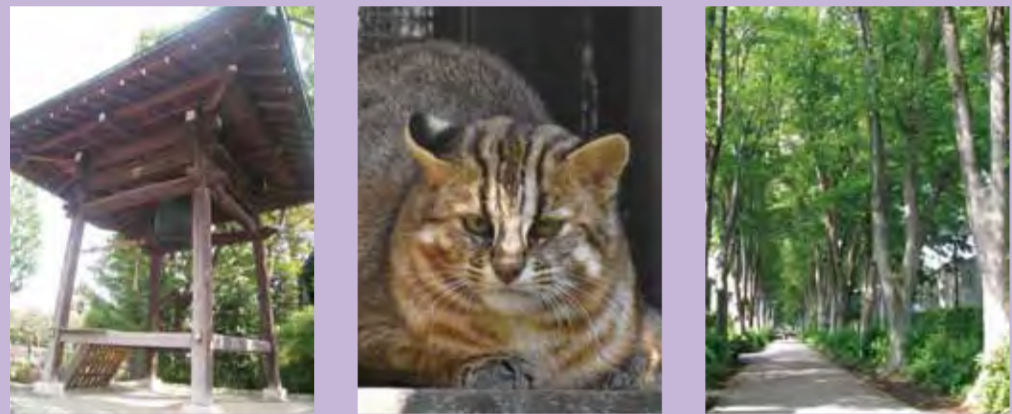


武蔵野市

文化財散策マップ



武蔵野ふるさと歴史館公式マスコットキャラクター
むーくん



武蔵野市教育委員会

武蔵野市のあゆみ

時代	おもなできごと
原始	井の頭池を取り囲む、東京都指定史跡井の頭池遺跡群の中心地にある御殿山遺跡および吉祥寺南町一丁目遺跡・三丁目遺跡(約30,000~15,000年前)の尖頭器などの石器が多数に出土している。さらに縄文時代中期から後期(約4,500~3,700年前)にかけての竈穴住居跡などが数多く発見されており、集落が複数存在していたことが判明している。また同遺跡群からは、縄文土器や打製・磨製石斧、石鏃などの出土遺物も数多く発見されている。
古代・中世	武蔵野八幡宮所有の鉄手刀(市指定有形文化財)は、8世紀代に製作されたと想定される鉄製刀の一種で、主に中部地方から北海道にかけての東日本に広く分布している。吉祥寺南町三丁目遺跡の発掘調査で、平安時代(9~10世紀頃)の住居跡や土器が発見され、平安時代にも市内に人々が住んでいたことが判明した。中世の資料として武蔵野八幡宮や井の頭池遺跡群から14~15世紀の板碑が確認されている。平成24年(2012)に行った七井橋通り面にした吉祥寺南町一丁目遺跡の調査により、正慶2年(1333)の板碑が発見された。また、地下式坑(地下施設)も発見されたことから、井の頭池の北には中世の生活領域があったと考えられる。
近世	近世初頭の市域周辺は、「牟礼野」と呼ばれる幕府御用農場であった。明暦大火(1657年)を契機にはじまった、江戸の都市整備により、取公された土地に住む百姓らは「牟礼野」へと移住し、吉祥寺村と西久保(西窪)村が開かれた。同時期に、関前村と境村も周辺村落から開発者が入ることで成立をみた。享保期(1716~36年)に関前新田と境新田が開発されて、市域の村々が出揃う。いずれも畑作物を江戸に出荷し、下肥を得る江戸近郊農村として展開し、次第に村落内部にも多様な生業が広がっていた。
近現代	幕末の動乱を経て、明治3年(1870)には、品川県が実施した社会制度に異議を唱える「御門訴事件」が起き、市域からは関前新田がこれに加わった。明治6年(1873)には、現在の小学校の前身となる研礎学舎、三省学舎、栄境学舎が開かれている。明治22年(1889)に、吉祥寺村、西久保村、関前村、境村に井口新田飛地を加えて武蔵野村が誕生した。同年には甲武鉄道(現・JR中央線)も開通し、境停車場(現・武蔵境駅)が設けられた。大正12年(1923)の関東大震災以降、東京郊外としての発展をみて、昭和3年(1928)には武蔵野町が成立した。太平洋戦争中の昭和19年(1944)には、軍用機のエンジンを製造していた中島飛行機武蔵製作所が米軍の重点攻撃目標とされ、最終戦までに計9回の爆撃を受け、甚大な被害が生じた。昭和22年(1947)の市制施行後は都営や公営などの住宅団地が次々と建設され、市街化が進んだ。また吉祥寺・三鷹・武蔵境の駅周辺の再開発が実施され、なかでも吉祥寺駅前地区は、商業都市としてぎわっている。

文化財の保護

この地図で紹介している文化財は、各寺社や所有者の方々によって大切に保管され、継承されてきたものです。見学の際にはマナーを守り、文化財の所有者の迷惑になるような行為や、文化財を汚損するような行為は慎んでください。なお、屋内で保管されている文化財は見学できませんので、ご了承ください。市内の指定文化財に関するお問い合わせは、武蔵野市立武蔵野ふるさと歴史館までお願いします。

文化財に関するお問い合わせ
武蔵野市立武蔵野ふるさと歴史館
 〒180-0022 武蔵野市境5-15-5
 直通ダイヤル：0422-53-1811 FAX：0422-52-1604
http://www.city.musashino.lg.jp/kurashi_guide/shogaigakushu_koza/rekishikan/
 平成16年5月 初版発行
 令和3年4月 第11版発行
 制作：株式会社 塔文社

旧境村

1 D-6 市有形文化財
観音院の来迎阿弥陀如来像
境南町一丁目八幡宮境内

観音院境内の下田家墓地にある。これは、阿弥陀仏の立像で、天和2年(1682)に、旧境村開発者の一人である下田三右衛門の追善供養のために建立されたものである。

2 D-7 市有形民俗文化財
境南町の庚申塔
境南町三十五

宝暦2年(1752)に建てられた。正面には更新橋の庚申塔と同じ青面金剛像が刻まれ、左に太陽、右に三日月が彫られ、下に悪鬼を踏まえ、さらに使者としての三猿が彫られている。

3 E-6 市史跡
杵築大社の富士山
境南町二丁目杵築大社内

明治14年(1881)5月、境村をはじめ、遠く埼玉県安松村(現所沢市)を含む近隣22町村の丸嘉講の協力により作られたものである。富士講は富士山に対する山岳信仰の一種で、江戸時代から明治初期に普及したもので、それとともに信仰登山がさかんにおこなわれるようになった。

4 E-5 市天然記念物
高橋家の大ケヤキ
境三丁目境三丁目緑地内

樹齢約340年と推定され、高さ約18m、根元の周囲は約4.9mである。東側の屋敷垣にも数本の樹齢100年未満のケヤキがあり、屋敷林の形態を残している。

5 C-4 国名勝
小倉井サクラ
小倉市学園町二丁目小倉水南所

玉川上水の両側約6.5kmに植えられた、約1000本余りの桜並木で、江戸幕府8代将軍吉宗の時代に、大岡越前守忠相の命により大和の吉野山や常陸の桜川から取り寄せたヤマザクラの苗木を植えたものである。

6 E-6 市天然記念物
杵築大社の千本イチヨウ
境南町二十丁目杵築大社内

このイチヨウは榎木で、主幹5本、支幹40本数本によりなる。現状から見て、何らかの原因(落雷など)により地上部は枯死し、その根原より生じた支幹(ひこばえ)が成長して現在の主幹となったものと推定される。

7 E-6 市有形文化財
武蔵野八景碑
境南町一丁目杵築大社内

明治32年(1899)の甲武鉄道開通・境停車場開設10周年に武蔵野村旧境村の人々が、地域が発展したことを記念して、優れた景観を選び、それを伝統的な八景と合わせて顕彰したものである。旧境村の人々が自らの地域に愛着と誇りをもっていたことがうかがえる。

8 E-6 国登録有形文化財
旧東京市麻布区役所庁舎(日本獣医生命科学大学号棟)
境南町一丁目

郡内では唯一の明治期の庁舎建築。明治42年(1909)に東京市麻布区役所庁舎として創建され、昭和12年(1937)に現在地に移築された。マンサード屋根や正面入り口二階壁面の造作などに創建時の雰囲気が残っている。

旧関前村

1 F-3 市有形文化財 【非公開】
旧関前村名主役宅
八幡町一八三三

関前村名主を世襲した井口家は、享保9年(1724)関前新田の開発が始まると、同地に移り住み開発に従事したが、名主役宅もその頃建てられたといわれている。屋根は改造されたが、なかでも草ぶきの入母屋造りであり、書院造風の農家の形式を留めている。

2 F-3 市有形文化財 【非公開】
井口家の高札
武蔵野市で保管

井口家には5枚(江戸末期~明治初期)の高札が遺されている。これらの高札は、為政者の触書類を記したもので、高札場に掲げられ、村民に対する周知の図られたものであり、村落支配の面からも重要な資料である。

3 F-3 市天然記念物 【非公開】
井口家のサンシュユ
八幡町一八三三

新田開発に功勞のあった井口家の先祖が、ほかの新田名主とともに幕府から褒賞として与えられたものといわれ、その植栽年代は寛延3年(1750)ごろと伝えられている。毎年3月上旬には沢山の黄色の花をつける。

4 F-2 市天然記念物 【非公開】
井口家の大ツバキ
八幡町一七

井口家屋敷裏の畑の奥にある稲荷社の境内にツバキの木がこんもりとした姿を見せている。このツバキは、樹高約7m、根本周径が2mもあり、樹齢が290年以上と推定される古木である。

5 F-3 市有形文化財 【非公開】
延命寺の護摩炉
八幡町一丁目延命寺内

護摩炉は密教の法具で、護摩を焚く時に用いる炉である。この護摩炉は元禄7年(1694)に製造されたもので、大きさは長さ52cm・炉高14cm・蓋高11cmで、材質は炉・蓋ともに銅製である。

6 F-3 市有形文化財
御門訴事件記念碑(倚鐘碑)
八幡町一八二

明治3年(1870)正月10日夜、関前新田を含む武蔵野12ヶ所の新田の小前百姓数百名は、品川県の命じた社会制度(前年に備えた野駝)に異議を唱えて県庁の門前に詰めかけた。多数の逮捕者のみならず半死まで出した事件を記念すべく、明治27年(1894)に倚鐘碑が建てられた。倚鐘とは鐘(すき)にもたれて往時を回顧する意である。

モデルコース 距離:約7km 所要時間:約100分

7 E-5 市天然記念物
竹内家のカキの木
境南町三十二丁目

竹内家の前庭にあり、地上高1.55mのところでは北側と南側の二股に分かれている。樹齢は約300年と推定される。現在も毎年秋には多くの甘い実がなる。

8 D-6 市天然記念物
玉川上水
たまがのじょうすい

F-5 国史跡
玉川上水
羽村町四合木戸

承応3年(1654)、江戸市での飲料水不足を解消するため玉川清右衛門・庄右衛門兄弟らによって開削された。玉川上水は、野火止用水や本市域を流れる千川上水などの分水派とともに、水利に苦しんでいた武蔵野台地の新田村落にとって動脈の役割を果たし、享保の新田開発の基盤となった。平成15年(2003)に国の史跡に指定された。

古文書と民間信仰資料

古文書	村名	文書名	種別	参考資料【武蔵野市史】
旧関前村	井口家古文書	市有形文化財	資料編、続資料編4-8、史料目録編1	
	井野家古文書	市有形文化財	資料編、続資料編9、史料目録編2	
	榎本家古文書	市有形文化財	資料編	
	河田家古文書	市有形文化財	資料編、続資料編2-3、史料目録編2	
	村絵園と野帳	市有形文化財		
旧境村	江戸氏牛込氏文書	都有形文化財		
	秋本家文書	市有形文化財	続資料編10-13、史料目録編3	

民間信仰資料	村名	文書名	種別
旧境村	小林家の民間信仰資料(丸嘉講)	市有形民俗文化財	
	高橋家の民間信仰資料(丸嘉講)	市有形民俗文化財	
旧関前村	秋本家の民間信仰資料(丸嘉講)	市有形民俗文化財	
	岡田家の民間信仰資料(丸山教)	市有形民俗文化財	
旧西久保(西窪)村	岡田家の民間信仰資料[だらにすけの看板]	市有形民俗文化財	

武蔵野市における富士信仰は、丸嘉という集団により組織され、その規模も大きく、富士講八百数十講のうち五指にこそえられる講中だった。

旧西久保(西窪)村 モデルコース 距離:約8km 所要時間:約120分

1 I-2 市有形民俗文化財
更新橋の庚申塔
緑町一丁目上久保

安永4年(1775)の建立で、練馬区関町との境にある更新橋の傍の小祠に安置されている。正面には青面金剛の忿怒相が刻まれている。

2 G-3 市天然記念物
源正寺のイヌツゲ
緑町一八源正寺内

樹齢は350年を経ていると推定される。本樹の高さ約4m、幹围は地上約0.7mで1.9m。幹围に比べ樹高が低く、低部より横枝が出ているのは若木の頃から観賞樹、独立木として植栽されているためです。

3 H-2 市天然記念物
ふじの美保育園のフジ
緑町三十四ふじの美保育園内

和名[ノダフジ]といい、右巻きに巻きつく性質がある。樹齢は約240年と推定される。胸高幹围1.27m、根元周囲1.48m、根元より高さ1.6m付近より5幹に分かれている。

4 G-3 市有形民俗文化財 【非公開】
稲荷神社の絵馬
緑町一八五稲荷神社内

嘉永5年(1852)から大正末期頃までのもので、この間に盛んに奉納されたと思われる。現在総数35枚が保存されている。絵馬は家内安全・夫婦和合を表したものが多く、庶民の神仏に対する祈願の内容がよく表れている。

旧吉祥寺村

1 K-5 市有形文化財
安養寺の梵鐘
吉祥寺東町一丁目安養寺内

安永2年(1773)に鋳造された当市内で最も古い梵鐘で、鐘頭の二本の角は江戸時代の特色を表現している。なお、製作者は境村の鋳師高橋甚右衛門で、これは当市域の鋳師の存在を知る上で貴重な資料である。

2 K-5 市有形民俗文化財
安養寺の甲辛庚申供養塔
吉祥寺東町一丁目安養寺内

寛文5年(1665)の建立で、当市内で最も古い庚申塔である。庚申塔に女性の名が刻まれていたり、主幹に文字で阿弥陀仏を表すなど、当地では珍しいものである。また、これは吉祥寺村の開発に従事した人々のうち10人の名前が銘記されている。なお、刻銘のうち「甲辛」は「庚申」、「阿弥陀」は「阿弥陀」のことであると考えられる。

3 K-4 市有形文化財 【非公開】
武蔵野八幡宮の鉄手刀
吉祥寺東町一丁目武蔵野八幡宮内

昭和3年(1928)境内の大ケヤキの根元から出土したといわれている。現存長さ63cm、最大身幅4.3cm、厚さ0.5cmで、外装は尖い銜は錆びている。製作年代は8世紀代と考えられている。

4 I-3 国登録有形文化財【内部非公開】
濱家住宅西洋館
吉祥寺北町三丁目八十四

アメリカから輸入した木造2階建てのツーバイフォーのプレファブ住宅。大正後期創建。その後、数度の改修を経たものの、外壁の下見板張、木製の上下窓などオリジナルの意匠や部材が多く残る。当初は成蹊学園の学生寮として利用されていた。

5 I-4 市天然記念物
成蹊学園のケヤキ並木
吉祥寺北町三丁目成蹊学園内

大正13年(1924)、成蹊学園が池袋より移転した際に植栽された。樹齢は約130年。正門より西側道約450mの間に約140本のケヤキがある。

6 L-5 都天然記念物
吉祥寺旧本宿のケヤキ
吉祥寺本町一丁目五十二

高さ約30.5m、目通り幹围5.4mある。地上7m付近から根元まで空洞がある。

モデルコース 距離:約7km 所要時間:約100分

7 K-5 市有形文化財
仙路翁墓礎碑
吉祥寺本町一丁目一十二蓮東寺内

天保6年(1835)10月、吉祥寺村の仙路翁(松井十郎左衛門)の弟子たちによって、仙路翁の事績を顕彰するために建立された筆子塚。江戸後期の吉祥寺村の状況や村人の役割などを知ることができる資料として貴重である。

8 K-5 市有形文化財【非公開】
月窓寺観音堂の乾漆造白衣観音坐像
吉祥寺本町一丁目一十六月窓寺内

市内に所在する仏像としては最古の銘「元禄2年(1689)」を持ち、近世例としては珍しい乾漆づくりで、高さ37cm、金色の美しい像である。白衣観音は、馬頭観音信仰と結びつき、村人達に信仰されたといわれている。

9 J-6 ~ K-6 都史跡
井の頭池遺跡群

武蔵野市には、旧石器時代から縄文時代にかけての遺跡が数多くある。井の頭池周辺は当時から生活に欠かせない水の供給源としてだけでなく、食料となる多くの動物を育んできた場所だった。それゆえ人々の生活は豊かで、暮らしやすい土地だったのであろう。

I-6 井の頭自然文化園 (写真提供:公財)東京動物園協会)

<p>タンチョウ 国特別天然記念物</p>	<p>コウノトリ 国特別天然記念物</p>	<p>カモシカ 国特別天然記念物</p>	<p>ツシマヤマネコ 国天然記念物</p>
<p>オオサンショウウオ 国特別天然記念物</p>	<p>ミヤコタナゴ 国天然記念物</p>	<p>アカサガシラ 国天然記念物</p>	<p>カラスバト 国天然記念物</p>

水生生物館

<p>オオサンショウウオ 国特別天然記念物</p>	<p>ミヤコタナゴ 国天然記念物</p>
--------------------------------------	---------------------------------

井の頭自然文化園

公開時間:午前9時30分~午後5時(入園は午後4時まで)
 入場料金: 大人 400円
 65歳以上 200円
 中学生 150円
 (小学生以下と都内在住、在学の中学生は無料)
 休園日:毎週月曜日、12月29日~1月1日